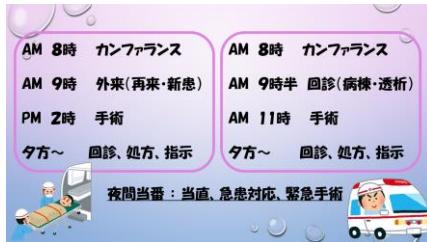


「外科での治療について学んでみませんか？～私たちこんなことしています～」

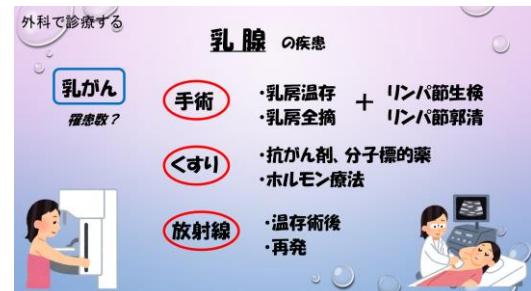
私たちの1日は朝8時のカンファレンスから始まります。夜間帯の救急患者さんの報告や入院患者さんの状態共有、当日の新患や紹介患者さんの目通しを行い、「外科チーム」として活動しております。その後、外来診療や病棟回診、手術、処置・処方・指示出しなどを分担して行いつつ、突然訪れる救急患者さんへの対応も併せて行っております。診療時間終了後は当直や夜間の急患対応、場合によっては緊急手術などにも対応し、24時間途切れることのない診療体制を敷いております。



このように「外来」「入院」「手術」を診療の3本柱としておりますが、実際に外科で診療している疾患について見てみましょう。キーワードは「首から下のありとあらゆるところ」。具体的には「甲状腺・副甲状腺」「乳腺」「消化管（食道・胃・小腸・虫垂・結腸・直腸・肛門）」「肝臓・胆嚢・胆管・脾臓」「ヘルニア」「血管（動脈瘤・靜脈瘤・動脈硬化・シャント・足壊疽）」といった、様々な臓器や病態に対応いたしております。それらを一つ一つ解説してみます。



「甲状腺・副甲状腺」の疾患としては、「しこり」「動き」「炎症」の3タイプに分けられます。「しこり」のものとしては良性腫瘍やがん、「動き」の異常としてはバセドウ病や橋本病、副甲状腺機能亢進症、「炎症」のものとしては亜急性甲状腺炎や急性化膿性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎などが挙げられます。それらに対し、『手術』『くすり』『放射線』の三種の神器を用いて治療しております。『放射線』は「内照射（内服治療）」がメインとなります。これらの分野は一般的には内分泌内科が治療する範囲でありますが、当院ではすべて外科で行っております。



「乳腺」の疾患としては何といっても乳がんが挙げられます。年々増加傾向にあり、女性における罹患数第一位となっております。約9人に1人が乳癌にかかる時代です。乳がんに対しても、『手術』『くすり』『放射線』の三種の神器を用います。手術においては、乳房温存手術や腋窩のリンパ節生検を積極的に行っております。乳がんの治療は多岐に渡るため、東北大学や東北医科大学の専門家（乳腺外科医）による乳腺外来（金曜日）を設け、連携を取りながら診療にあたっております。



「消化管」の疾患もやはりがん治療が中心となります。三種の神器を用いて治療しますが、手術においては「腹腔鏡や胸腔鏡」を用いることがかなり多くなっています。拡大されるため非常に見えて、細かい操作が可能になります。傷が小さい、痛みが少ない、回復が早いなどの多くのメリットがあります。がん治療の他にも、腸閉塞や虫垂炎、外傷などの様々な手術が可能で、緊急手術にも対応いたしております。



「肝胆膵」のがん治療も同様であります、「高難度手術」と言われるものも含まれ、状況に応じそれらにも取り組んでおります。またこの分野では「胆石」が最も多く、先ほどと同様に「腹腔鏡」を使用して手術を行っております。「急性胆のう炎」に対しては緊急で手術を行うことも増えております。



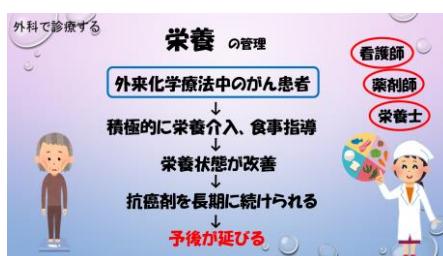
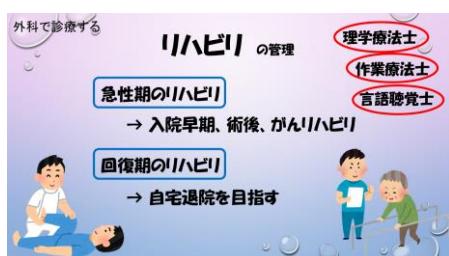
「ヘルニア」は俗に「脱腸」と呼ばれることが多いですが、「鼠径ヘルニア」「大腿ヘルニア」「腹壁ヘルニア」など種類が様々です。ヘルニアに対しては三種の神器は用いずに『手術』のみの治療となります。この分野も最近では「腹腔鏡」を用いることが多くなっており、年間 100 例以上の手術を行っております。



「血管」の病気は、動脈瘤の破裂や血管が突然詰まってしまうなどといった緊急事態となることがあります、東北大学の専門家（血管外科医）による血管外来（木曜日）を設け、連携をとりながら診療いたしております。手術が必要な方は大学病院などで行うことが多いです。

以上のように、総力を挙げて「首から下のありとあらゆるところ」に対応いたしております。

その他に気仙沼の外科として特徴的なのは「人工透析」の管理を行っているというところです。泌尿器科と分担し、外科では火・木・土の透析患者さん約 70 名弱の管理にあたらせていただいております。透析室の看護師や臨床工学士との協力が必要です。またリハビリ科長（外科医）を中心に「リハビリ」や「栄養」の管理にも携わっておりますが、これにも理学療法士や作業療法士、言語聴覚士との連携、薬剤師や栄養士の協力が必要不可欠であります。さらに外科に関連する部署として、「ストマ外来」「緩和ケア外来」「外来化学療法」がありますが、各々に認定看護師が在籍しております、彼らを中心に関連しております。



まとめとなります、このように『多職種連携』『チーム医療』を重んじ、気仙沼医療圏唯一の総合病院、外科手術・緊急手術が可能な唯一の病院として、これからも地域医療に貢献して参りたいと思います。からだのことでお困りの際は、かかりつけ医を通して、あるいは直接でも構いませんのでお気軽にご相談下さい。

